

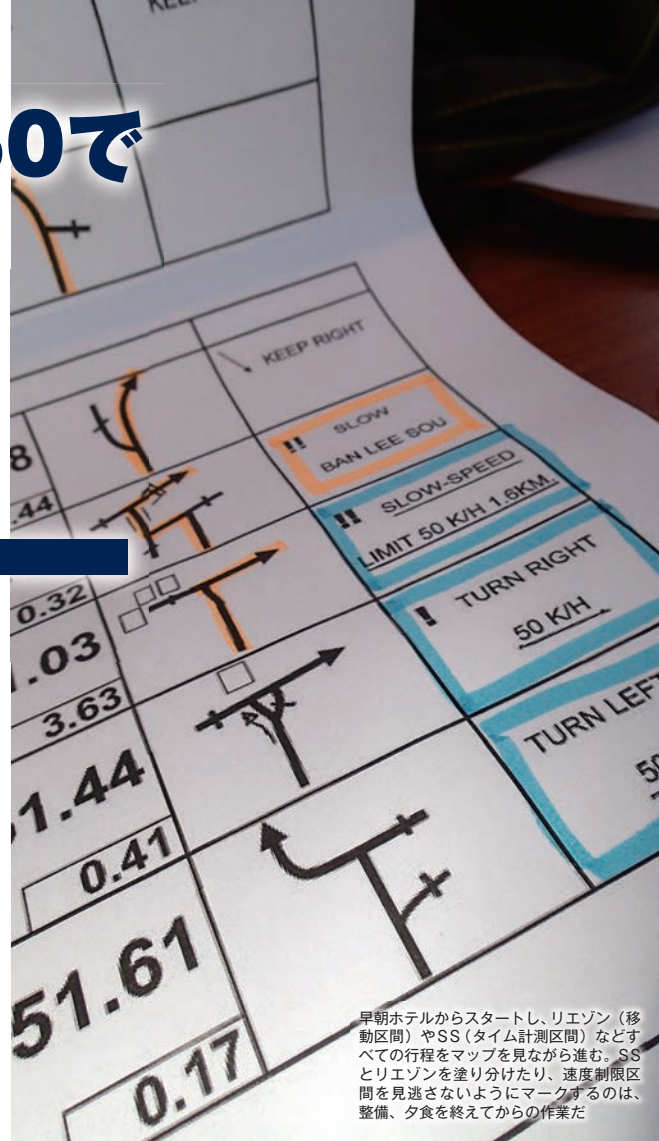
Husqvarna FE450で
宮崎大吾が挑んだ

タイ王国 冒険ラリー



「信じていいのは自分とマップだけ。」
江連忠男

SS1の116.79km地点は吊り橋と川渡りを選択する地点だったが、二輪は川渡り禁止ということで橋を渡った。序盤は楽しかったが、揺れがハンパないつえに、朽ちて出来た穴が視界に入ってきた。顔は引きつる。渡り切る辺りで恐怖のあまり大声を出してしまった



早朝ホテルからスタートし、リエゾン（移動区間）やSS（タイム計測区間）などすべての行程をマップを見ながら進む。SSとリエゾンを塗り分けたり、速度制限区間を見逃さないようにマークするのは、整備、夕食を終えてからの作業だ

「道は必ずあるんです。」
—池町佳生—

のままスタートを迎えるなど、肉体精神ともにきついイベントも多かった。そんなとき、僕は心から「ハスクバーナで良かった」「FE450で良かった」と思ったのだ。その理由は後の頁で書きたいと思う。ラリー1、2日目はチェンマイ特有の滑る赤土の山岳路ステージ。後輪がパンクしているんじゃないかと疑うほど、グリップしない。2回のスリップダウンを喫したが似たような土質の雨のテージャスランチを思えばなんとかなる。前方を走る前田啓介さん（JNOC）やJECのコース作りに携わる。は余裕なのかな？とか思いながら、実は前田さんは前半のタイムで飛ばしすぎてガス欠、村人にガスをもらっていた！

問題は3日目。実は大会後に主催者と飲みに行った席で聞かされたんだけど、彼らは細かい分岐を繰り返す密林の中で多数のトラップを仕掛けていた。正規のマップ以外に、木にペンキで書かれたのなかつた僕が、ジャパンチームサポート隊のリーダーの存在の大崎徹さん（ハスクバーナ東名横浜）に誘われて、初めて参戦したのが昨年の8月。ハスクバーナFE501はラリー初心者の僕を載せて、アンコールワットを含む2500kmの道中を無転倒、ノントラブルで完走させてくれた。僕は生涯忘れられない強烈な経験の中でラリーの醍醐味を知ると同時に、ハスクバーナビッグシグナルのラリー適応力の高さと、絶対的な信頼性、ライダーを助ける能力（整備効率の高さも含めて）を深く知ったのだ。2年目の今年、それは確信となった。FE450もまた、ノントラブルで完走に導いてくれたのだ。



LEG4の目玉の一つだったスプラッシュポイント。AXCRは毎日予想外のことが起きる。色々な路面を走る。2年連続トラブル無しで完走に導いてくれたハスクバーナへの、僕の信頼は揺るぎない。真正正路、FE450の欠点が多くないのだから！
PHOTO/TAKAHASHI MANABU

タイ北部の町チェンマイを起点として、約2,500kmの行程で展開されたアジアクロスカントリーラリー。20周年を迎えた大会に、僕は再びハスクバーナで挑んだ。ハスクバーナFE450は凄く頼もしいヤツだった。淡々と走り完走した僕だけど、実は今年もまた、ラリースト達の心に残る言葉やドラマが、たくさんあった
TEXT/MIYAZAKI DAIGO

ASIA CROSS COUNTRY RALLY 第20回アジア クロスカントリーラリー ENDURO only

- 日時:2014年8月8日~14日
- 開催地:タイ(チェンマイ・メーホンソン・スコタイ・ブレ)
- 主催・問い合わせ先:アジアクロスカントリーラリー日本事務局 TEL03-5911-3844
- 協力:タイ国政府観光庁、チェンマイ市
- URL:<http://www.r1japan.net/axcr>



SSを終えてサービスエリアに戻ってきた瞬間の開放感が最高。昨年初挑戦で完走、今年は残念ながら負傷でリタイアした鶴山光太郎さんが、いつのまにかマップケースを磨いてくれた。サービススタッフやヘルパーのおかげでゴールを目指す！
PHOTO/KOBARA MASAOKI

僕が年が明ける前から記事や参戦の構想を練り、春先から企画書を持ってハスクバーナモーターサイクルズジャパンに交渉しに行った。ラリー参戦のためのマシン貸与をお願いしにいったのだ。野口代表に僕のわがままを聞いていただき、今年はFE450をお借りすることができた。

「マシン貸与を受けているから良いことしか書かないだろう」なんて、思わないでほしい。僕はいつでも正直に話したり書くので、記事やウェブで書いていることは100%本音である。

昨年は雨天時を想定したタイム設定だったが、実際には晴天続きだったので結果として緩くなり、途中で食事する余裕さえあったのだが、今年は寄り道する時間はなかった。これが通常のラリー進行だと後日知った。また、2日目の夜、日本チームのすべての工具や荷物を載せたトラックが山道に苦戦し、真夜中にホテルに到着するという事態も発生。着替えもなく夜明け前に起床して整備して、そ

木に書かれたマークはラリーとは無関係だった笑

ラリーという競技にまったく関心のない僕が、ジャパンチームサポート隊のリーダーの存在の大崎徹さん（ハスクバーナ東名横浜）に誘われて、初めて参戦したのが昨年の8月。ハスクバーナFE501はラリー初心者の僕を載せて、アンコールワットを含む2500kmの道中を無転倒、ノントラブルで完走させてくれた。僕は生涯忘れられない強烈な経験の中でラリーの醍醐味を知ると同時に、ハスクバーナビッグシグナルのラリー適応力の高さと、絶対的な信頼性、ライダーを助ける能力（整備効率の高さも含めて）を深く知ったのだ。2年目の今年、それは確信となった。FE450もまた、ノントラブルで完走に導いてくれたのだ。



チェンマイの夜はナイトバザールでにぎわう。大会オフィシャルホテルを出るとすぐにこんな風景



レースクイーンが大会に花を添えてくれた



チェンマイ市街地でセレモニースタート。冒険の扉が開く PHOTO/TAKAHASHI MANABU



大会前夜はスポンサーFBさんのはからいで、バーを貸し切った飲み放題パーティ！ PHOTO/TAKAHASHI MANABU



大会中お世話になりっぱなしだった韓国のHEOさん。バッグの中がエアージャッキーとか、チェーンオイルなど色々出てくるので多くの方が助けられているはず(笑)。めちゃくちゃいい人!



スウェーデンのマンガスさんが旧友の大崎さんにヘルメットをプレゼント。マンガスさんはJNCC開幕戦でも来日、本大会は痛恨のミスコースがあったが見事3位を獲得



総合2位は韓国のRYUさん。KTMコリアのセールスマネージャーだが、韓国はレースが少ない。JNCCなど日本のレースに来たがっているので実現に期待 PHOTO/TAKAHASHI MANABU



5D前田氏を師匠とする前原敦史さんは、初海外&初ラリーながら総合14位に。ここだけの話、最後のチェンマイ市街で迷子になったとき、彼に書いていって無事会場に到着(笑)。頼もしい! PHOTO/KOBARA MASAOKI



ラリー終了後は鶴山さん、伊藤さんと旧市街の寺院探索

ASIA CROSS COUNTRY RALLY 2015
20th Anniversary Memorial Event

ENDURO only

昨日はマントラブルに泣いた池町さんは、2度目のAXCR優勝



参戦4年目の山田さんがちゃっかり握手しているのは、台湾の美人タレントのロスリン。彼女は人気のラードライバー PHOTO/Jessie



チェンマイ名物のカオマンガイ。蒸し鶏を載せたご飯で調味料をかけて食べる。タイの屋台や食堂では、数百円で感動のご飯が食べられる



Kokenの吉野幸夫さんは四輪で参戦経験があったが、昨年の鶴山さんに続き二輪で初挑戦。真夜中に到着という厳しい日を経て、見事に完走! PHOTO/TAKAHASHI MANABU



LEG5のSS、89.6kmは川渡りと一緒に押したり、プロテックススポーツ石井さんの後ろ姿を見ながらゴールまで走った。ほぼスタンディングで安定していて、凄く格好いい! 僕も60代になっても走るためには、石井さんのようなスタンディングを学ばなければ。その後のリエゾンのミスコースで300kmくらい合計に走ることに(笑)

RYUさんに対して、福村先生がふざけて「池町なんてやつつけやえ」って応援しているシーンを、見て、なにか凄く感動した。

来年はタイのバタヤスター、カンボジアのアンコールワットでゴールというルートが予定されている。日本はもちろん、各国からさらにライダーが集結してくるに違いない。このラリーはエントリー料が20万円ほどで、毎晩のホテル宿泊や食事が含まれているので衛生面や身体的にも楽。バイクやバイクの輸送、ラリー特約の生涯保険などを入れて50万円くらいで楽しめる低コスト。現地の物価も日本の1/3。そして一日で走るSSの本数や距離の短さなど、海外ラリーとしては数居の低さが売りの。来年は日本人ライダーのサポートもさらに充実しよう。ぜひ挑戦してみたい。死ぬ間際に思い出せるほど、強烈で面白い体験がきつとできるから!

「ちゃんとマップを見れば、道は必ずあるんですよ」

このラリーの道中、そして終わったあとでもなぜか僕の心に残る言葉、それは、池町さんの「道は必ずある」。トップライダーと違って、僕は日に数度は迷ったり道に自信が持てなくなる。でも、池町さんはマップの情報と実際の光景、そして勘を働かせて、多くのライダーが「ん?」となる所も突き進んでいく。だから速い。「道なんてないじゃないか」と思っている僕だけに、この発想からして違うのだろう。いや、かりに

「この道で間違いない」と進んだ結果間違っていたらどうするんだ? 元の場所に戻る? という不安はどうすればいい? ラリーは困難なときほどその人の性格が現れる。僕はよく人に「淡々と走る」と言われるけど、相当な方向音痴で、想定外の出来事に対する恐れと不安があるので、内心ドキドキなのだ。でも、池町さんの言葉は、この先の人生で色々なことを切り開いたり、選択したり、生存していく上で何か大

切なものだと思える。そして、いろんな国のライダーと助け合い、一緒にゴールできたときの嬉しさと達成感が忘れられない。そんな経験を1個1個重ねて、僕はいつしかラリーに惹かれていく。まだまだ分からないことだらけ、1つ言えるのは、マップを信じる「こと」と、勘を磨くこと。もっと言えば、走行中のチラ見で正確に判断できる集中力や、そのためのライディング技術向上ということになるのだろう。

とまあ、こんなふうに大きに書いていくけれど、ハスクバーナFE250に乗る初参加の伊藤さんは、ラリー中同室だったのでたくさん話をした。彼はその夜、「そんなに難しくなかったですよ。コマ図と距離が合わない所は轍を見たりして進んでいきました」と、ニコやかに淡々と僕に話すのである。そして彼はこの日、池町さんに次ぐ日本人2位、13位でフィニッシュしたのだ。いやあ、いろんな強者がいてラリーは本当におもしろい。



AXCRの注目度は年々高まり、日本人ライダーも16名が参加。中央自動車大学の國奥先生、4年生の柴田君のヘルプも心強かった。チームジャパンののほりを発見したときの安堵感格別! PHOTO/TAKAHASHI MANABU

僕はと言えばDR400OZで参戦したヘテランのHEOさんに、ずっとお世話になった。リエゾンで露店に呼ばれて冷たい飲み物を2日連続でおごってもらったり。あの冷たい缶コーヒーは、今までの人生で一番美味しかった。リエゾンも一緒に走ってくれた。一緒にSSで迷った時も。マップステアを破損した石井進さんに対して、自分も帰還したばかりで疲れているのに、ウエアも着替えずに、持参したアルミ板を加工して見事なステアを造って修正したという逸話も残っている。ある朝のスタート、トップでスタートしていった池町さんがいなくなったあと、2番手の韓国トップライダー



BAJA1000でおなじみの福村先生と抱き合っている韓国のJUNGさんは、日本語が話せるひょうきん者で、ムードメーカー。LEG4で迷ったとき、僕は彼が間違えていると思ったけど、彼が正しかった。あとで謝ったら「そんな～、気にしないでください」って日本語で返された。ほんと、いいやつ PHOTO/YOSHIZAWA NAOKI

「仲良くなるなんて、こんなに簡単なことなんだよ。」

—石井進—



LEG4の90km辺りで、マップには描かれていない川が出現。池町さんと前年優勝の前田さんは水没を喫したが、二人で協力して見事脱出。そんなことがあったとは知らず(川を見た瞬間に「これは正しいルートじゃない」って思っはと深かった)、迷走した僕らは地元のタイ人に迂回路を教わった。一寸先でなにが起こるか。ラリーは本当に分からない PHOTO/Jessie

「本当の友は競技中でもお互いを助け合う。」

—Olle Ohlsson—

多国籍化してきたAXCR。ラリーで自然と絆が結ばれる

20年の歴史を持つAXCRだが、二輪クラス発足からわずか4年目にして、エントリー台数40台というにぎわいを見せている。日本人は16人、ハスクバーナの会場スウェーデンからも6名が参加。韓国からは6名、タイから8名、カンボジア2名、インドネシア1名、カナダ1名という、多彩な国ぶれのライダーが集まった。

自然と道中を海外ライダーと行動を共にすることが多くなり、前述のようにSSで迷ったときは、身振り手振りと言葉の英語で「こっちじゃね?」「いや、俺も分からん!」「ここにマークがあるぞ!」(大会と無関係のマーク)「笑」なんてやりとりしながらフィニッシュを目指すのだから、それはもう自然と仲良くなるのだ。特に今回印象的だったのは韓国人達が素敵な人達で、良い仲間になった。ジャナリス、国内トップライダーなど、年齢や職業もバラバラの彼らはチームワークも良かったし、他チームに対しても皆フレンドリーで、日本人とも意気投合した。

僕はと言えばDR400OZで参戦したヘテランのHEOさんに、ずっとお世話になった。リエゾンで露店に呼ばれて冷たい飲み物を2日連続でおごってもらったり。あの冷たい缶コーヒーは、今までの人生で一番美味しかった。リエゾンも一緒に走ってくれた。一緒にSSで迷った時も。マップステアを破損した石井進さんに対して、自分も帰還したばかりで疲れているのに、ウエアも着替えずに、持参したアルミ板を加工して見事なステアを造って修正したという逸話も残っている。ある朝のスタート、トップでスタートしていった池町さんがいなくなったあと、2番手の韓国トップライダー

ハスクバーナは僕にとって絶対的に信頼する『相棒』だ。

ベース車両:
Husqvarna FE450
(2015年モデル)
Special Thanks:
ハスクバーナ モーターサイクルズ ジャパン
(KTM JAPAN内) TEL03-6380-7020



昨年同様リアにはIRC[BR-99]。減りは早い傾向だが、柔らかいコンパウンドでグリップ力が落ちない。マデ、ハードバック、砂にガシ、なんでもコレで行ける。フロントはエンデューロでも愛用する不動の一択「ix-07S」。各オープンブレース、リアは山岳路ステージの2日までヘビーチューブ。その後新品ピブムース。前後タイヤは各3本使用。ムースも各1回入れ替えた

問: アイ・アール・シー井上ゴム工業
TEL0120-041718(フリーダイヤル)
http://www.irc-tire.com/ja/mc

ENDURO
only

FEDERAL TYRES VESSEL PROFESSIONAL TOOLS
ASIA CROSS COUNTRY RALLY 2015
20th Anniversary Memorial Event

アチェルビスの16L燃料タンクは、容量やスタイル共にベストチョイスだった。道中のガス欠の不安から解放されたので、走りやナビに集中できた。ハスクバーナ東名横浜オリジナルのウインドスクリーンは、雨風からの保護や、リエゾンでの風圧、風切り音による疲労から僕を救ってくれた



荷物が多くなるラリーに最適なFOXの「ポータージョック (25L ¥15,120 税込)」が役立つ。3Lの水パックを内包、背中の通気性も高められていて文句なしの使い心地だった。これを選んで大正解

問: ダートフリースク
TEL0561-86-8301
http://www.dirtfreak.co.jp



エンジンオイルとオイルフィルターは毎日交換した。オイルはBELRAYの「ワークスサンバーレーシング10W-50 (¥4,212 1L 税込)」という合成エステル製をチョイス。長距離走行でのエンジン特性やクラッチタッチも変化が少ないので安心。次号でエンジン分解企画を予定

問: トライスターインターナショナル
TEL03-3779-5131
http://www.belray-japan.com



今年もまた「ハスクバーナで良かった」と心から思えた。なにが起こるか分からないラリーには、絶対的な信頼をおける相棒(バイク)がほしい。2年連続トフル無で完走に導いてくれたハスクバーナは、とにかく僕を助けてくれた。色々な面で、まず今年乗ったFE450は、余裕のあるパワーで、長距離リエゾンの一気走りでも真価を發揮。SOHCは初中級者にも優しく、SSでも相当コントロールしやすかった。道が分かりやすいところは飛ばし、迷う所は停止したり、ゆっくり走ったり、ときにはUターンしたりと、とにかく総合的な取り回しや、軽快性、全域のエンジン特性が求められるだけに、そのすべてで最高だった。昨年の

ハスクバーナライダーが9人に大増加!



伊藤一憲さん・FE350



梶野雄稔さん・TE250

初参加の伊藤さんはAXCRに出るためにFE350を購入。何事にも動じなく、帰還力が半端ない! 転倒時にビッグタンクを破壊するも、僕の標準タンクを取り付けて無事完走。「慣らしもせず初めて乗ったけど、楽しく乗りやすい!」と絶賛だった

初回のルート(メ)を転倒で壊されてしまった。最終的には「スケーリング」の大きさを確認して、大きな風景に感動して「すっかりハマった」とのこと。来年の参加も心を決めているようだ

チェンマイのセレモニーフィニッシュ地点で、ハスクバーナ & フサベルライダーの集合写真を撮影。昨年は僕1名だけだったのが、スウェーデン4人、タイ1名、日本人4人の大所帯に。パーツ互換性の面でも心強い

ラリーの一日は、AM5時頃起床・朝食、AM6:30頃第一ライダースタート、SS、リエゾンを走り、PM3:4時ホテルに帰還、日に暮れる前に洗車洗濯や整備、

FE501も扱いやすく、重さを感じない場面が皆無だったけど、FE450はさらに軽快。これが序盤の赤土スリッピーな路面で存分に活かされたと思う。第2に耐久性、とにかくタフで壊れないということが、ラリーでどれだけありがたいことか! マシンに高負荷をかけ続けるラリーでは、メカトラブルを抱えるライダーを見ることが多いのだが、僕にはまったくその心配がないので、ストレスからも解消される。ラリーの一日は、AM5時頃起床・朝食、AM6:30頃第一ライダースタート、SS、リエゾンを走り、PM3:4時ホテルに帰還、日に暮れる前に洗車洗濯や整備、PM7時頃夕食、翌日のマップ準備などを終えて、深夜に就寝と、常に動き続けている。だからこそ、ハスクバーナの耐久性や整備性の高さが、ラリー大会中は身に染みてありがたいのだ。ラリーはもう、エンデューロでも「ハスクバーナで良かった」と、思う人は、これからどんどん増えていくと確信している。ちなみに今年もラリーマシン作成はハスクバーナ東名横浜の協力を得た。大崎さんは毎年二輪サポート隊も務めているから、AXCRの知識と経験では圧倒的。僕もお店にいろいろあるので、ぜひお店でラリーの面白い話をたくさん聞きにきてほしい!



昨年使用したFOXの「V1レース (¥30,240 税込)」の使用期限が切れたので新品に変更。V2、V4より少しタイトだけど、通気性が良く、吸水性と通気性が高く視界良好なSMITHのゴーグル「FUEL V.2 SWEAT-X (¥13,176 税込)」も新調した

問: ダートフリースク
TEL0561-86-8301
http://www.dirtfreak.co.jp



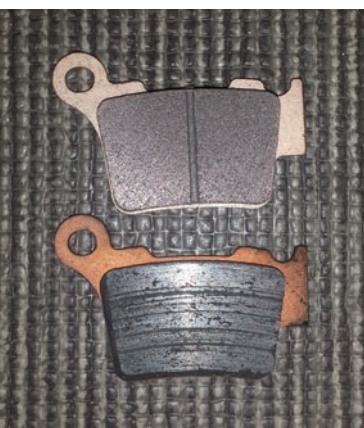
泥や埃の吸着を大幅に低減する「グラファイトチェーンlub (¥2,700 340g 税込)」。黒煙を成分としているのでチェーンが黒くなるけど、手や車体各部の汚れが減って、フリクションロスも低減。手放せない要用品

問: 昭和貿易 TEL06-6441-8123
http://www.showa-boeki.co.jp/gcl



Gaint Loopの「ジグザグ ハンドルバーバッグ (¥7,776 1.5L 税込)」には、携帯ツールやプラグなどを収納。ハンドル操作の邪魔にならずとも便利。ハスクバーナ東名横浜でGaint Loop取扱い中

問: ハスクバーナ東名横浜 TEL045-465-6071
http://www.husqvarna-yokohama.com



ブレーキパッドはCL BLAKES (写真上) のシスタードメタル・オフロード用を使用した。耐久性が高いので前後ともに無交換で済んでしまった! 約2,500kmの距離と、前半の滑る山岳下りを長距離走行したことを考えると驚異的。ブレーキタッチも最高

問: xam-ジャパン
TEL06-6576-7521 http://xam-japan.co.jp



01. スタイリッシュで保護性が高い「ALUMINIUM HANDGUARDS (¥13,395 税込)」可倒式の「FLEX BRAKE LEVER (¥12,398 税込)」FLEX CLUTCH LEVER (¥12,398 税込)、手の豆防止用に「GLIP DOUGHNUTS SET (¥1,107 税込)」を装着 02. 樹脂製で破損時のトラブルを軽減する「CHAIN GUIDE (¥12,952 税込)」ほか、定評のあるT.M DESIGN WORKS製のスライダーなど、チェーン周りも充実している 03. 「SWING ARM PROTECTION (¥7,749)」は脱着も簡単。保護性に加えてスポンサーステッカーが貼りやすくて便利。「REAR BRAKE DISC PROTECTOR (¥10,738)」もスタイリッシュでグッド! 04. 「SKID PLATE (¥18,045 税込)」は頑丈なアルミ製をチョイス。脱着に時間が少かかるが、サイドまでカバーする頑丈なものということで使用。安心感が違う 05. 昨年に続き「STEERING DAMPER (¥57,454 税込)」を装着。突然現れるギャップへの対応や、コーナリング中の安定感アップに効果大。TE250の梶野さんも話していたけど「これは着けるべきアイテム」



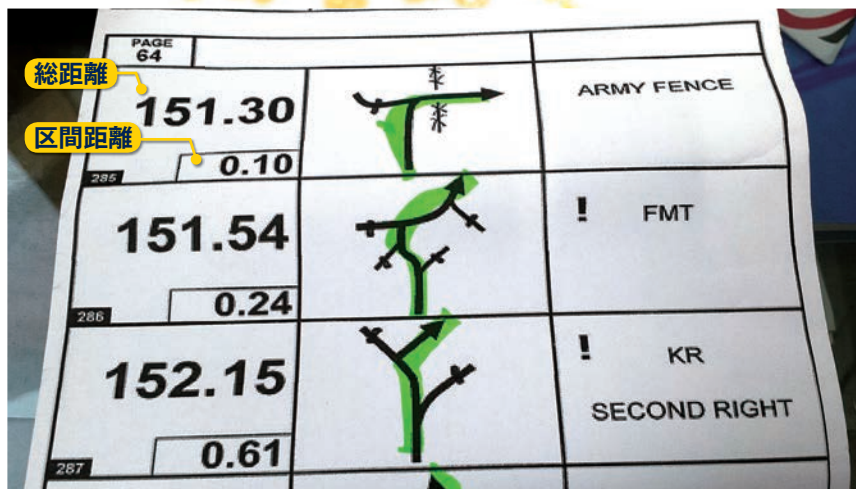
04. 「SKID PLATE (¥18,045 税込)」は頑丈なアルミ製をチョイス。脱着に時間が少かかるが、サイドまでカバーする頑丈なものということで使用。安心感が違う 05. 昨年に続き「STEERING DAMPER (¥57,454 税込)」を装着。突然現れるギャップへの対応や、コーナリング中の安定感アップに効果大。TE250の梶野さんも話していたけど「これは着けるべきアイテム」

Husqvarna Motorcycle Accessoriesもラリーで役立った!

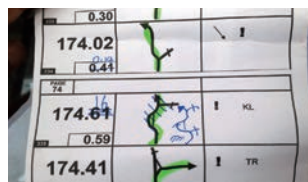


05. 昨年に続き「STEERING DAMPER (¥57,454 税込)」を装着。突然現れるギャップへの対応や、コーナリング中の安定感アップに効果大。TE250の梶野さんも話していたけど「これは着けるべきアイテム」

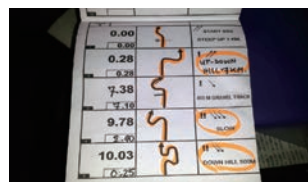
すべての情報が マップに集約されている!



昨年はラリー初体験だったので区間距離も確認していたのだが、今年は総距離のみ見て進んだ。僕の走り方は間違えにくいT字路のコマや、注意しなくてはならない分岐までの総距離を頭で反芻し、メーターを見ながら、その地点まで飛ばす。そして分岐で減速して注意しながら曲がる。写真で言うと2個目のコマまではT字路だから気にせず走れるけど、区間距離が100mとか240mと短いので感覚で走る。3コマ目は分岐が細かいので、間違えないように気を使う



ラリーの情報はすべてホテルのHQ (ヘッドクォーター) の掲示板上に貼り出される。翌日のマップの距離やコマ図の修正、削除、差し替えなどは頻繁にある。写真は距離とコマ図の変更を写し取って、自分で書き換えた例



SS2のスタートからいきなりコーションマークが連続して緊張した。右側の「!!」「!!!」がついている箇所はマーキングしておく。走行中に強制的に視界に入ると読み飛ばしてしまい、危険だから

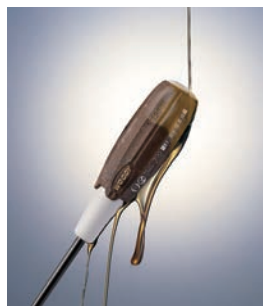


ヴィレッジ(村)では速度制限がされている所も多く厳守する。今年はスピードガンでの取り締まりはなかったようだが、スポーツ精神にのっとり、ここは守っている。もちろん子供達や住民、家畜もいるので安全に!



SS1の橋渡りか川渡りを選ぶコマで実際の風景。二輪は川渡り禁止だったので前述のように朽ち果てて揺れる怖い吊り橋を渡った

工具メーカー『VESSEL』が大会スポンサーに



油に強く、滑らない「ウッドドライバ」も人気アイテム。世界初の木樹脂グリップがノンスリップ性能を高めている。これはライダー向けの逸品!



さっそく僕も「デュアルトンドライバー」をサスペンションアジャスターの調整に使ってみた。ポリプロピレン製で軽くて握りやすく、力もしっかり伝わるので気に入っている PHOTO/TAKAHASHI MANABU

八角形で握りやすく力が伝わりやすい「デュアルトンドライバー」。メッキ加工されたクロムバナジウム鋼の軸を持つ。精度の高さは、メッキ厚みの影響が少ない無電解ニッケルメッキ仕上げによるもの



問: ヴェッセル TEL0120-999-914 (フリーダイヤル) www.vessel.co.jp



トップライストの江連忠男選手も「このドライバーは、手に持っただけで凄いいのが分かる。精度も高そうだし、これが参加賞で配られるなんて嬉しいですね」と絶賛
PHOTO/TAKAHASHI MANABU

エアアジアで安く快適にタイへ!

渡航に使用したのはLCC (格安航空会社) のエアアジア。席も思ったより広く、十分快適な旅をすることができた。あと、CAが美人揃いで、感じもいい!



■エアアジアURL: <http://www.airasia.com/jp/ja/home.page>



大会スポンサーのFB (古河電池) は、なんと日本人二輪選手すべてにバッテリーをサポート! FTシリーズの「FTX5L-BS」は小型軽量ながら高性能を誇る、信頼性抜群の商品。ラリーは信頼性ある商品こそ価値がある

■古河電池URL: <http://www.furukawadenchi.co.jp>



大会前日、バッテリーがあがっていた首藤さんだが、FBバッテリーの無料サポートを受けて無事解決! 本日に嬉しいサポート

FBバッテリーは
二輪参加者全員をサポート